

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

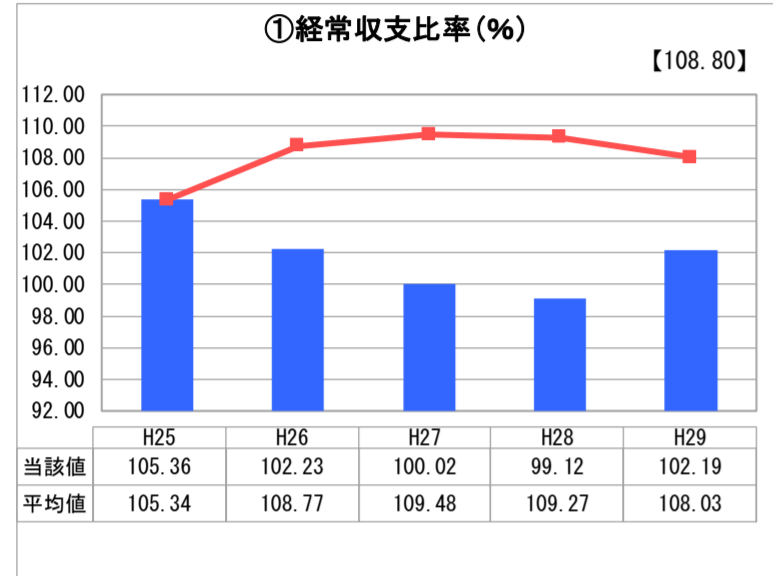
北海道 石狩市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	58.20	90.33	83.15	2,689

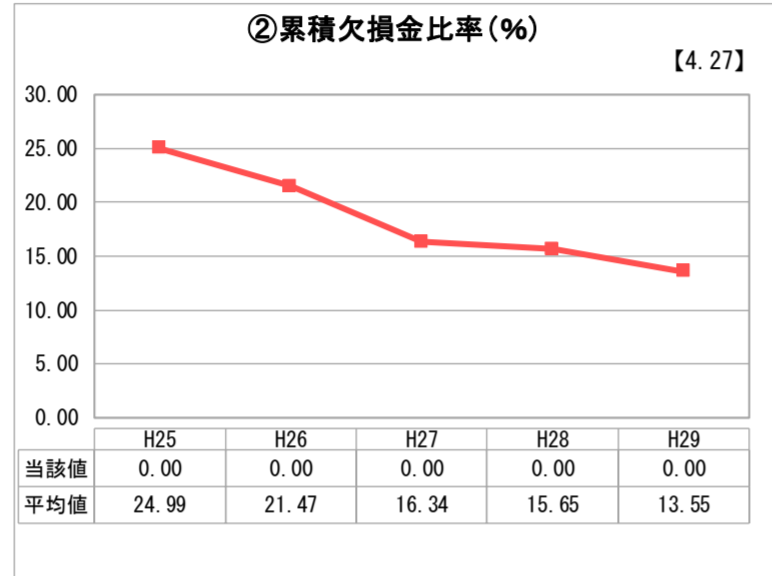
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
58,502	722.42	80.98
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
52,761	11.01	4,792.10

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

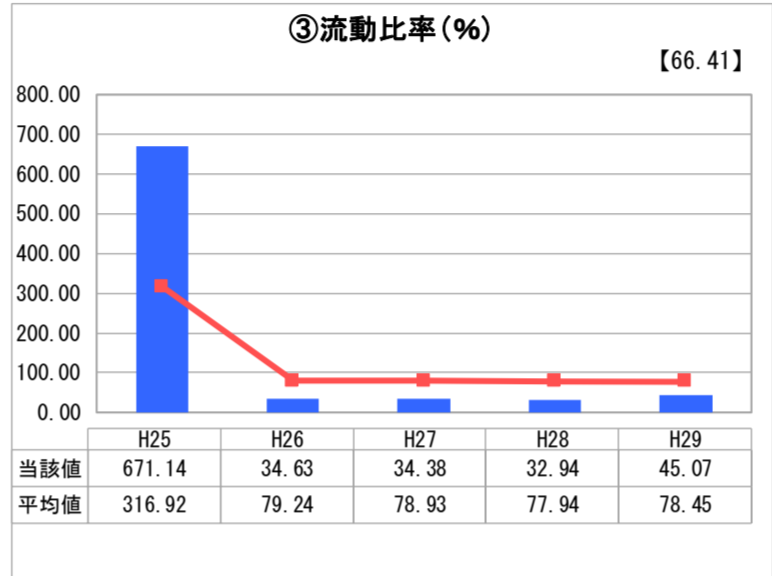
## 1. 経営の健全性・効率性



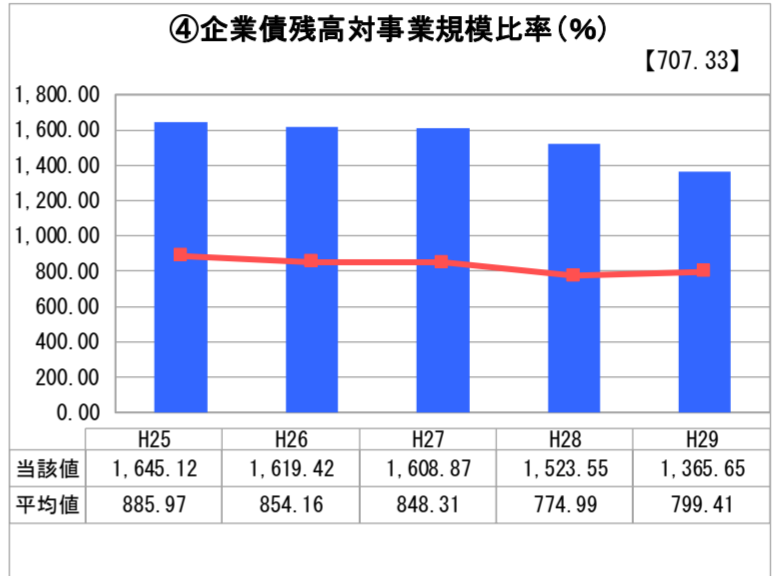
「経常損益」



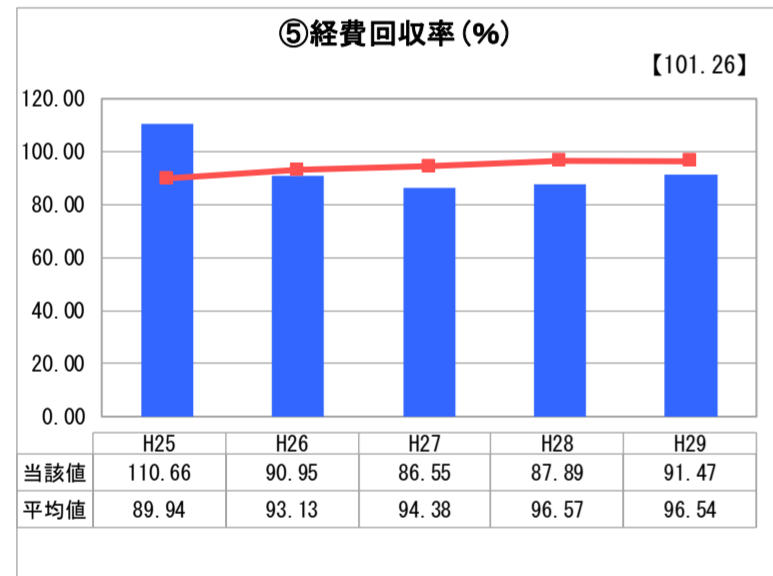
「累積欠損」



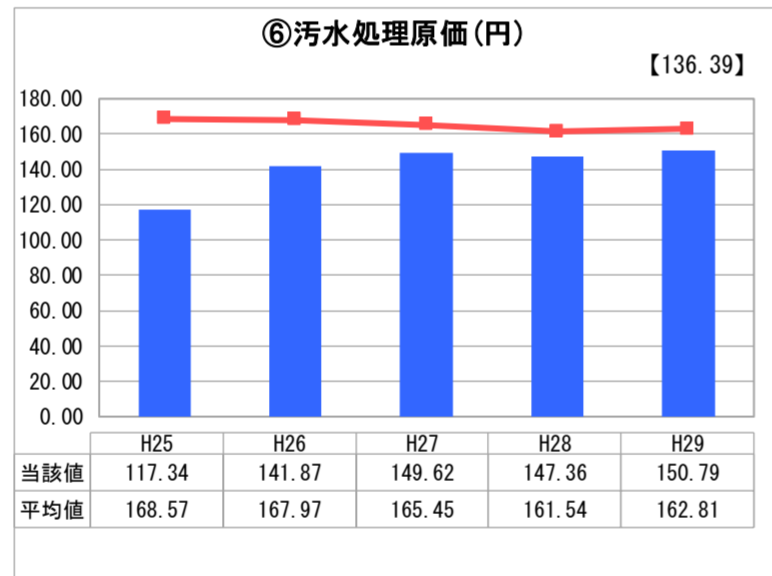
「支払能力」



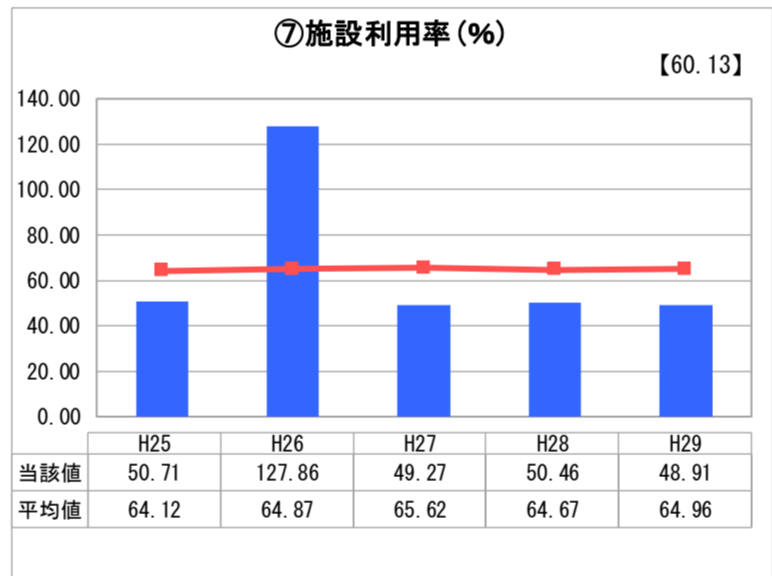
「債務残高」



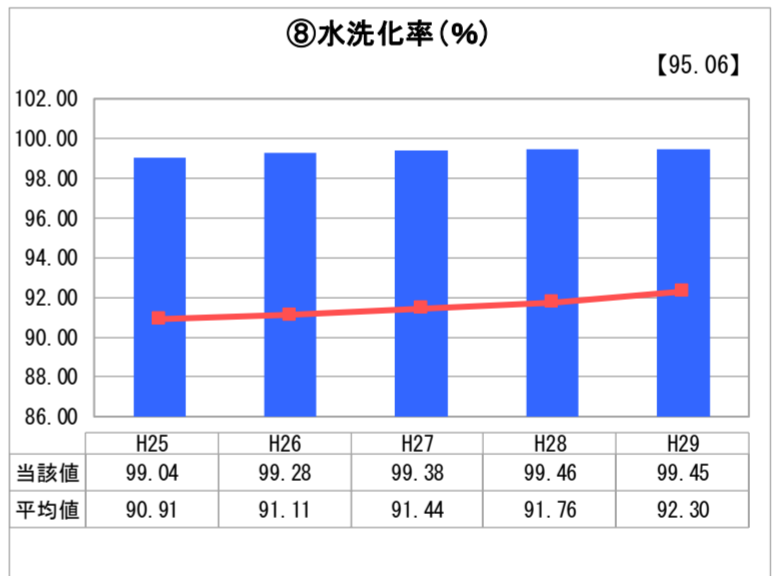
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

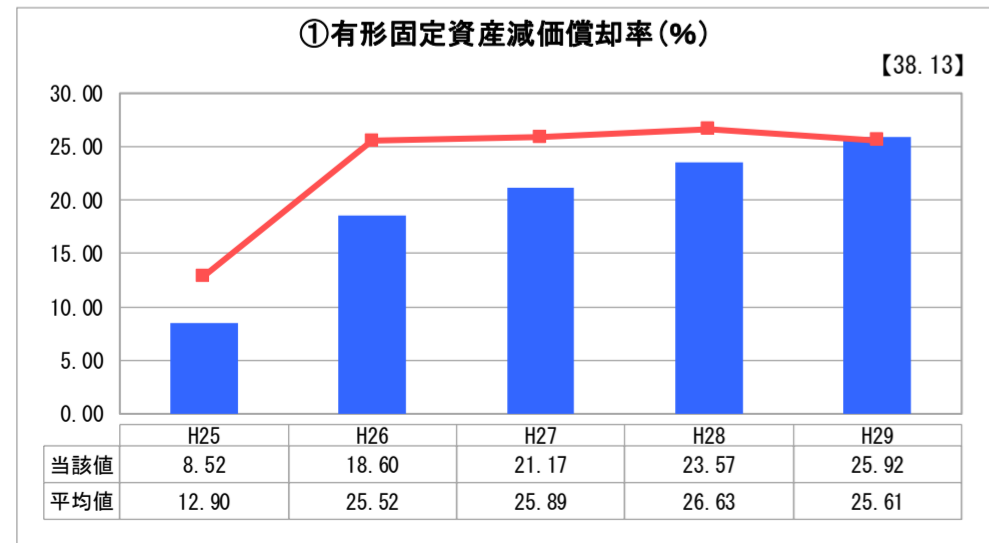


「施設の効率性」

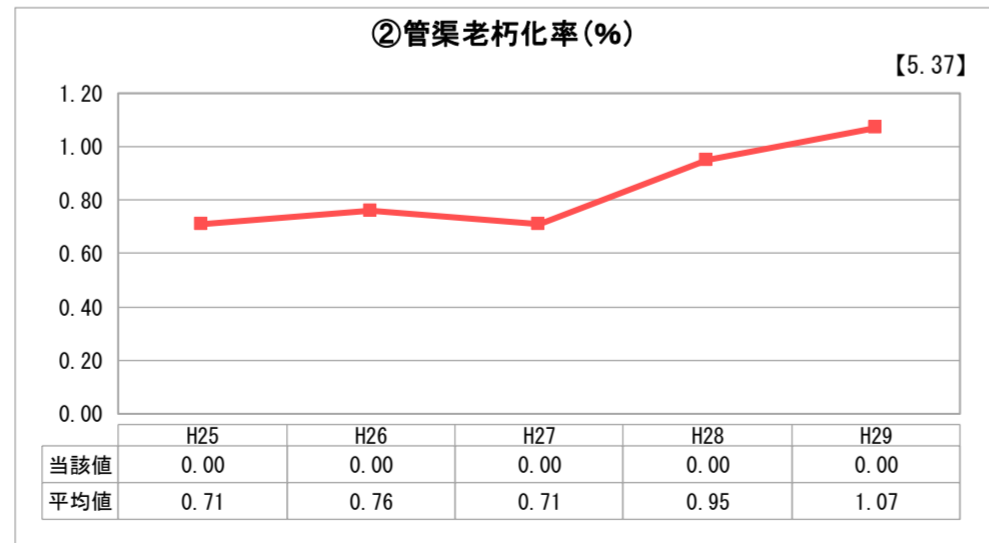


「使用料対象の捕捉」

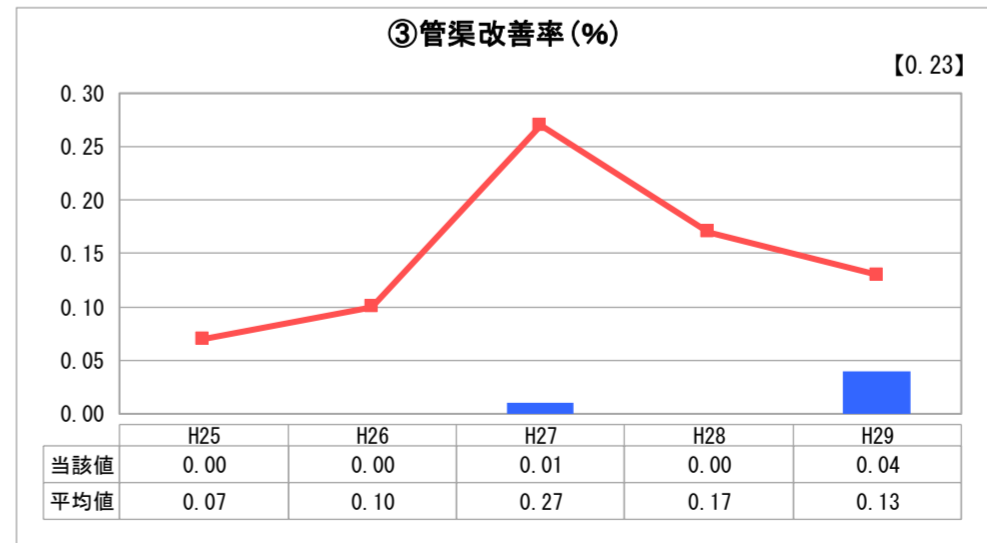
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

汚水管の整備はほぼ完了しており、水洗化率は99%を超え高い状況である。経常収支比率は100%を上回り、累積欠損金もないことから、現時点での経営状態は比較的良好である。また、流動比率は100%を下回っているが、流動負債に含まれる企業債については問題なく償還できている状況である。過去に行った施設整備による企業債が経営の負担となっているが、企業債の償還は進んでおり、残高は減少傾向にある。企業債残高事業規模比率は類似団体より高い状況であるが、汚水処理の大部分をスケールメリットが大きい札幌市施設に委託し、その他、職員の削減、企業債の低利率への借換、事業計画の見直しによる過大投資の抑制など、様々な経営努力を行ってきた結果、汚水処理原価は他団体をやや下回っているが、設備補修費の増加傾向などから上昇傾向にある。

### 2. 老朽化の状況について

現状では耐用年数を経過した管渠はないが、有形固定資産減価償却率は上昇し、現状として、処理場・ポンプ場の電気・機械設備の劣化が進んでいることから、設備補修費が増加傾向にある。また、数年後には耐用年数を経過する管渠が増えてくることから、その後急激に老朽化が進展することが想定される。このため、各管渠の状態や実情に合わせて、適正に更新できるよう計画するとともに、財源確保を図る必要がある。

### 全体総括

これまで行ってきた経営改善の努力により、汚水処理原価は類似団体をやや下回っているが、処理場・ポンプ場等の施設において、設備補修費が増加傾向にあり、汚水処理原価が上がるなど、経営状況は楽観視できない状況にある。今後は、人口減少等により使用料収入の減少が見込まれるうえ、現状からの大幅な経費削減は難しいことから、適正な使用料水準を見極めながら、汚水処理に要する経費を賄う収入を確保できるよう対策を講じる必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。  
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。